令和４年度中四国学生弓道連盟代表者会議議事録

会議日時：令和４年８月 28 日（日）13:00~17:30
場所：zoom

１．定足数の確認

【中四】委員長：配布書類の確認
出席 30 校、委任状を１４校より全加盟校 48 校のうち 3 分の 2 以上の出席 （委任状含む）があるため、本会議は成立。

２．2021 年度中四国学生弓道連盟会計報告

2-1.2021 年度中四国学生弓道連盟中間会計報告

会計：**収入の部**

前年度繰越金は 1,844,599 円。また、本学連関係の部員登録費は 1,192,000 円となっている。連盟費については 225,000 円である。第 65 回西日本大会参加費の 67,000 円について、今年度は中四国地区の一部の参加校の参加費用を中四国学連で一旦集め、主管校へまとめて振り込む形を取ったため、このような表記になっている。利息を含めた、これらの合計は小計②の 1,484,011 円。

＜全日学連関係＞

昨年度は全日学連の部員登録費と連盟費を一旦、中四学連で集めて全日学連へ一括で振り込んでいたが、今年度は各大学から直接全日学連へ振り込んだため支援金のみの計上となっている。

上から順番に中四国大会、中国大会、西日本大会の支援金でそれぞれ 6 万円、3 万円、5 万円。合計小計③の 140,000 円 となる。収入合計は繰越金、小計②、小計③を合計して小計④の収入の合計が、346,810 円となる。

支出の部

＜援助金（特別）＞

昨年行われた中四国大会の最終的な収支が赤字となったため、主催である中四学連から不足分を補填した。そのため、赤字分の 583,453 円を本学連から主管校（香川大学）へ振り込んでいる。

＜役員返金＞

連絡・郵送費、印刷費、役員交通費・宿泊費、雑費の４つの区分になっている。連絡・郵送費に関しては鳳雛、領収書、代表者会議の資料等の郵送費、全日学連との連絡のための速達代が含まれている。

印刷費に関しては、西日本大会の後援申請と武道館宛ての資料の印刷代である。役員交通費・宿泊費は臨時代表者会議の際の役員の交通費になる。
雑費については、ゼッケンのインク、ラミネートフィルム、安全ピンなどの費用になります。これらを合計したものが小計⑤にあたり、本学連関係の支出としては 948,972 円となる。
＜全日学連関係＞
大会支援金のみとなっており、合計金額は全日学連関係の収入の部と同額の 140,000 円になる。また、小計⑤と⑥の合計が小計⑦総支出額となり、これは、1,088,972 円となる。次月への繰越金は 小計④引く⑦で 2,379,638 円。

2-2.2021 年度中四国学生弓道連盟会計監査報告

会計監査：2021 年度の中四国学生弓道連盟の会計報告書は、預金通帳の 2021 年 9 月 1 日から 2022 年 7 月 31 日の期間において正確にて適正である。

2-3.2021 年度中四国学生弓道連盟会計決算見積報告

会計：中間会計報告書の内容に、８月中に見込まれる収支と実際にあった収支を計上している。まず支出の部では鳳雛代を追加し、それに伴う手数料、郵送費、包装代を変更している。また収入の部では利息のみ変更している。

＜中間会計報告の承認＞
委員長：会議の過半数の承認が得られたので、承認された。

3.第 70 回夏季中央委員会結果報告

副委員長：＜来年度の全日本学生弓道連盟が主催する大会の予定＞
第 60 回伊勢神宮奉納 日程：11 月 24 日（木）～27 日（日） 会場：伊勢神宮弓道場
第 35 回全国大学弓道選抜大会 日程：6 月中旬 会場：明治神宮弓道場 ※日程、会場ともに不確定要素が多め。変更の可能性あり
第 71 回インカレ個人予選 日程：男子 7 月 1 日（土)、女子 7 月 2 日（日） 形式：オンライン
第 71 回インカレ団体戦・個人決勝 日程：8 月中旬～下旬 ※国体との関係により調整中

＜規約改正＞
改正前

インカレ個人戦規定 第十章 競技規定 現行 第 60 条：①予選は決勝に先立ち、各地区会場で行う。以下の基準を満たした者を決勝進出とする。

一、男子 一次予選 二射一中以上 二次予選 二射二中 一、女子 予選 四射三中以上 一、予選開催日は各地区会場と本連盟の取り決めたる日付とすること。 一、予選開催日の会場における附け矢は行わないものとする。 一、各会場における予選の運営は、原則として本連盟の指示する方法に則るものとする。 ②決勝は以下の方法で行う。 直径三十六センチ的にて二射二中の後、射詰を行う。ただし、射詰四本目か ら直径二十四センチの星的を使用する。なお、予選通過人数が実施要項で定 める表彰者数に満たない場合、予選通過人数を表彰者数とする。 ③的中を逸した者の順位決定は、優勝決定以外遠近競射によるものとする。 ④遠近競射の際、外れた矢で順位の決めにくいものは改めて行うことができ る。ただし、掃き矢は最下位とする。 ⑤①～④までの規定で開催が困難である場合は、実施要項に則るものとする。

改正後

第 60 条：①予選は決勝に先立ち、対面又はオンラインによる審判員の監督の下で行う。 ②予選は原則として自大学道場で行う。ただし、自大学道場での実施が困難で ある場合は、公営道場その他弓道場での実施を認める。 ③予選通過基準は以下の通りとする。 一、男子 一次予選 二射一中以上 二次予選 四射四中 一、女子 一次予選 四射三中以上 二次予選 二射二中 ④予選開催日は、本連盟と各地区学生弓道連盟との取り決めにより決定する。ただし、やむを得ない事由により予選開催日に予選を行うことができない場合は、各地区学生弓道連盟と当該校との取り決めにより、予選開催日よりも前の別日に予選を行うことができる。 ⑤その他予選に関する細則は、本連盟の定めるところによる。

第 60 条の二：①決勝は直径三十六センチ的で射詰にて行う。ただし、射詰四本目から直 径二十四センチの星的を使用する。なお、予選通過人数が実施要項で定める表彰者数に満たない場合、予選通過人数を表彰者数とする。 ②（現行 60 条③） ③（現行 60 条④） ④①～③までの規定で開催が困難である場合は、実施要項に則るものとする。

＜インカレ遠的大会規定＞

第十章 競技規定

改正前

現行 第 65 条②：射詰競技においては、直径八十センチの霞的を使用することができる。

改正後

第 65 条②：射詰競技においては、直径七十九センチの霞的を使用することができる。

<理由>

現在 80 cmの霞的は販売されておらず、大会でも 79 cm的を使用しているため

第九章 審判規定

改正前

第 39 条一のイ：的輪内にて…場合。ただし、矢折れ、筈の飛びたる、又は矢の一部が、 垜内に接触している場合も中りとする。

改正後

第 39 条一のイ：的輪内にて…場合。ただし、矢折れ、筈の飛びたる、又は矢の一部が、 垜内（垜敷を含む）に接触している場合も中りとする。

・「垜内」の範囲を分かりやすくするために文言を変更した。

＜理由＞

的に中ってウレタンとか畳の場合だと跳ね返ってしまって矢尻が的の中にある時、筈が垜敷に立てかかった状態でも中りとするという意味を分かりやすくするために変更している。

＜中央委員会の議論＞

全て継続審議事項となっている。

＜介添えが足踏みを見る行為＞

伊勢大会や選抜大会では禁止されているが、アリーナの大会でも禁止するべきかどうかについて議論された。伊勢大会とか選抜大会との違いとして立札の有無がある。ただ、アリーナの場合は立札がずれている可能性もある。

＜性別適合手術を受けた選手の扱い＞

・体格差によるアドバンテージが比較的少ない競技であるため、性別変更は可能である

・むやみに変更されても競技の平等性が損なわれるため「性別変更できるのは一回まで」や、戸籍上の性別変更まで要求した方が良い。

＜インカレ大会改革案＞

全国地区での団体戦予選実施

<メリット>

現在の予選通過率は約 12%。特に、九州、中四国、北海道地区などの遠方の参加地区での減少が進んでいる。これを改善するために団体戦予選も個人戦と同じようにオンラインで行って通過校を 64 校に増やし、遠征費の負担を軽減することで参加を促せる。

＜デメリット＞

一度に全国の大学が会する大会が無くなってしまう。

男女混合の部の導入

<目的>

女子部員や補欠部員の活躍の機会を増せる。

<注意点>

会議の中で全日本学生弓道連盟の方から提示されたものでは、男子の部・女子の部に選手登録をしていない選手が出られるものだが、レベルが高くならない可能性や男子の部・女子の部に力を入れないで、こちらに力を入れるといった駆け引きが生まれてしまう可能性がある。規定での整備やプレテスト大会を実施して様子を見るのが良い。

4.確認事項

4-1.中四国学生弓道連盟年間予定

委員長：2022 年 9 月から 2023 年 8 月末までの大まかな予定を提示。

変更する際はこちらから加盟校に連絡する。

4-2.主管ローテーション、大会主管について

委員長：＜主管ローテーション＞

一年以上前には各大学に主管のお願いをする。依頼する前に、主管ローテーションを見てあらかじめ知っておいてほしい。

＜大会主管＞

大体の流れを記したもの。主管校をされる大学は参考にしてほしい。

4-3.各大学への連絡について

委員長：＜弓道部専用メールアドレス作成＞

各大学とのメールを確実にしたいので、各校で弓道部専用のメールアドレスを学連に報告して、使用してほしい。現在すでに弓道部専用のメールアドレスを持っている加盟校の方は引き続き使ってほしい。専用アドレスをお持ちでない大学は作成してください。

<連絡先提出>
９月７日の水曜日を期限とする。提出先は、中四国学連の HP の各種データにある連絡先変更届をダウンロードして、それに記入し、中四国学連のメールアドレス宛に変更届のファイルを添付して連絡する。すでに専用のメールアドレスを持っている大学の方も、お手数ですがご提出の方宜しくお願いします。
専用アドレスは、PC のアドレスのみ。提出の後で担当者が変更になった場合は、変更の度に上記の連絡先変更届を記入して中四国学連の方に提出。
各大学での幹部交代の際も、メールアドレス等の確実な引継ぎ。
中四国学連 LINE グループで、前任者は後任の方をグループに招待してから退会してください。

4-4.部員登録費・連盟費について

委員長：例年、部員登録費・連盟費関連については、中四国大会の主将会議後に行われる臨時代表者会議にてお伝えしているが、昨年は全日学連の登録の締切が大会よりも早かったので、今年はこの場をお借りして部員登録費・連盟費について説明をする。部員登録とは学生弓道連盟が主催する大会に参加するために必須となる登録である。登録は全日学連の HP から行うことができる登録です。中四国学連への部員登録は全日学連の部員登録に準じますので、更に中四国学連に登録する必要は無い。

＜登録方法は２種類＞

追加・変更登録

新入生とか新しく部員が入ってきたときに追加を行う登録方法。基本的に年中行うことができて、部員登録システムから各大学が行う。登録したら１週間以内に学生証のコピーを中四国学連に提出してもらう。

通常登録

前年度から引き続き在籍する部員の登録。システム上で自動的に更新されるので、特別な操作は必要ない。これも学生証のコピーを提出してもらうが、これの期限は学連が指定して期限までに学生証のコピーを中四国学連委員長宅に提出してください。
毎年誤って全日学連の方にコピーを送ってしまうことが多発しているので、必ず中四国学連委員長に提出してください。

＜部員登録費のお支払い＞

2022 年の８月現在では、全日学連の方では正加盟校は１人登録するあたりに 1000 円、準加盟校は１人当たり 500 円、そして、中四国学連では正加盟が１人 1000 円、準加盟も１人 1000 円となっております。全日と中四で準加盟の値段が違うのは、準加盟校は全日学連が主催する大会には出られないが、中四

国学連が主催する大会には出られるので値段が違っている。10 月から次年度の 9 月末までに登録した部員分の登録費を学連に支払う。期間中に登録を行った部員の登録費は途中で退部などをしてしまった場合でも支払う必要がある。
＜連盟費の支払い＞
2022 年 8 月現在は全日学連では正加盟校は一律 10000 円、準加盟校の連盟費は無い。中四国学連では正加盟校・準加盟関わらず一律 5000 円。全日学連と中四国学連で準加盟の連盟費の有無があるのは部員登録費の違いと同じ。連盟費の徴収も部員登録費の徴収と同じ。
部員登録費・連盟費を中四国学連に払って、中四国学連から全日学連に送るという形を 2021 年度から直接加盟校の方から全日学連に支払うことに変更。去年の 10 月 1 日から次の 9 月の 30 日までに部員登録した方の費用をこの 10 月の期間に支払う。10 月の支払い期間については学連が指定する。それ以外の期間で支払われると間違い金として計上する。
振り込みしたらその内容の明細を 1 週間以内に提出する。
１月 1 日から 1 月 31 日までがシステム停止期間となる。２月 1 日から 3 月 31 日までは先ほど申し上げた確認期間になっております。このタイミングで通常部員登録が行われる。各大学は、この期間中に更新された情報をシステム上でチェックし、間違い等がある方は全日学連に問い合わせして修正する期間。この期間のどこかで学生証の提出をまたこちらから連絡する。
４月 1 日から 8 月 31 日までは通常登録期間ということで追加・変更登録が可能になる。次年度の登録費等の詳細は後日改めて加盟校に連絡する。
必ず最新版の全日学連のマニュアルなどを確認してから行ってください。

5.次期役員の選出

委員長：連盟の規約第 8 条本連盟は、会長 1 名、委員長 1 名、副委員長 1 名、専任委員若干名（会計担当者含む）。
規約の 9 条『会長は代表者会議の議決により推薦し、本連盟を代表する。』
10 条『委員長は代表者会議の議決により選任され、副委員長および専任委員は委員長がこれを任命する。』
＜会長の選出＞
中村先生待機室に移動。
中四国学連からは中四国学生弓道連盟会長に岡山大学教授中村隆夫先生を推薦する。
代表者会議出席校の過半数の承認が得られたため、次期会長は中村隆夫先生に決定した。
＜委員長の選出＞

同様に承認が必要

＜推薦文＞

『私、現中四国学生弓道連盟委員長の越後雄介は、次期中四国学生弓道連盟委員長に岡山大学３年の岡林哲司さんを推薦いたします。岡林さんはですね、副委員長として私のサポートなどをしてもらったわけなんですけれども、時には私の代わりとして、沢山の場面で支えられることが多かったなと思っております。また岡林君はですね、部の方でも様々な大会に出場する機会も多い方でして、比較的多いわけですね。色々な大会に参加しているからこそ、選手の立場に選手の目線に立って色々中四国学連のことを見れるかなと思います。そんな彼であれば、次期中四国学生弓道連盟委員長として十分な働きをしてくれると思っております。ぜひ、加盟校の皆様にもですね、岡林君を次期委員長に承認いただければと思っております。』

<自己紹介>

現副委員長：『只今ご紹介にあずかりました、副委員長の岡林哲司です。今年度は幸い、主管校の方々はもちろんのこと、加盟校の方々のご協力のおかげで、中国大会からは対面での大会の実施ができております。その流れを絶やさないよう、そして、コロナウイルスの状況を見ながらにはなりますが、更なる規制の解除を目指して努めてまいります。また、越後委員長の下で培った経験を活かして、中四国学生弓道連盟の運営をより良いものにしていきたいと思います。加盟校の方々には今後ともご協力をお願いすることになるとは思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。』

＜承認＞

加盟校に承認されたため、中四国学連の次期委員長は岡林哲司に決定。

<副委員長推薦文>

現副委員長『私、現中四国学生弓道連盟副委員長の岡林哲司は次期副委員長に岡山大学二回生の武内孝太さんを推薦したいと思います。彼は、弓道に関してしっかりとした矜持を持っております。彼の知識は運営においても、また、私の抜けた所を補助してくれたり、加盟校の方々との円滑なコミュニケーションしたりするのに役立つと確信しております。また、これからの中四国学生弓道連盟をより力強いものにしてくれると思います。ぜひ承認のほど宜しくお願い致します。』

＜所信表明＞

次期副委員長：武内孝太、　次期書記：蔵田奈月、　次期会計：岡本結貴、

次期会計補佐：岸武瑠良

次期副委員長『この度中四国学生弓道連盟副委員長に推薦していただきました、岡山大学２年の武内孝太と申します。新型コロナウイルスの脅威が未だに収まっていない状況ではありますが、委員長のサポートに徹し、大会が無事開催されるよう尽力いたします。よろしくお願いします。』

現書記『はい、代読させていただきます。この度、次期書記に推薦していただきました、岡山大学２回生の蔵田奈月です。力を尽くして任された仕事に取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。以上です。』

次期会計『はい。この度次期会計に推薦されました岡山大学２年の岡本結貴と申します。この仕事を通して学連の仕事を円滑に行えるよう努めて参りますので、宜しくお願いします。』

次期会計補佐『はい。次期会計補佐に推薦していただきました、岡山大学２年の岸武瑠良です。中四委員という役を仰せつかるには誠に微力ではございますが、先輩方並びにほかの皆様方の協力を仰ぎながら業務に精進していきたいと思っています。宜しくお願いします。』

次期総務：林晃紀、森みなみさん、　次期会計監査：東和田悠太

6.議題

6-1. 第 68 回中四国大会について

委員長：第 68 回中四大会より女子団体が 4 人立になります。この規約改正については 68 回大会の結果を見てから必要であれば行いたい。次の大会をやってみてもしかしたら今まで通りでもいけるじゃないかとなる場合も考えられる。

規約と違うことをすることになるため会議に承認はとる。

＜意見・質問＞

特になし

＜承認＞

出席校の過半数以上の承認が得られた。次大会は 3 立で実施。

6-2. 選抜大会推薦校の選考方法について

委員長：選抜大会の推薦校の選考基準は中四国大会の団体予選の的中数上位 4 校を推薦校に選出している。この規定は推薦枠が中国地区と四国地区で別々に設けられた時に対応する基準になっている。現在は中四国地区でひとまとめにされているため、必ずしも団体予選の結果で推薦校を決める必要は無い。

＜変更案３つ＞

変更案①

「決勝リーグの最終順位上位４校を選抜推薦順位とし、５位６位を予備推薦校とする。」順当に大会の結果順、上から順番に推薦校を決めていくというので分かりやすく、最も強い４校を選抜するという意味合いにおいてもマッチする。

変更案②

「団体の決勝リーグの総的中数上位４校を選抜推薦校として５位６位を予備推薦校とする。」強さの基準を的中数と捉えた考え方になる。的中数が高い順に選んでいくのは、各大学の正確な実力というのが反映される。ただ、別で選考基準を設ける必要があるかと思います。これについては現在の選考基準に近いものになるかと思います。

変更案③

「団体予選と決勝リーグの総的中数上位４校を選抜推薦校とし、５位６位を予備推薦校とする。」こちらも選抜されるには団体予選から決勝まで高レベルな的中が求められるため効果は期待できる。別に基準を設ける必要がある。

41 条の２項では『本大会の団体予選は翌年度の全国大学弓道選抜大会の推薦校の選考を兼ねるものとする。』となっており変更する必要がある。

現在から変える必要があるのか、今のままでいいのか挙手で確認

変える必要があるという方に手を挙げて頂いた方が 18 校、それ以外が 12 校。

＜変更する必要があると答えた大学から意見＞

愛媛大学『はい。ありがとうございます。私は変更案の③ですかね、団体予選と決勝リーグの総的中数４校が良いのではないかと考えています。今だったら、予選の特に順位になってしまうと予選で調子が悪かった大学が選抜大会に出場できないことになってしまうので、団体予選と決勝リーグの総的中数で選考するってなると、やっぱり大学のレベルがはっきり表れると思うので、団体予選と決勝リーグどちらとも合わせた総的中数が良いのではないかと思いました。以上です。』

岡山理科大学『僕は、変更案の①がいいんじゃないかなと考えております。まず今の選考基準でいくと団体予選は確かに４位以上になった上に、決勝リーグで負けこんで最終的な順位が上位４校に入らなかったりということが実際起こっているので、まあ今の予選での選考基準じゃなくて、決勝まで行った後の選考基準を選抜の選考基準とするほうが妥当っちゃ妥当かなと僕は思います。その中で変更案①を選んだ理由としては、書いてある通りなんですけ

ど、大会の順位順になるので、わかりやすいかなと思います。的中数っていうのも考えはしたんですけど、大会の時に勝ち切れるチームがいいのかなと考えました。』

中村先生『選抜大会の枠、中国地区と四国地区と全日本弓道連盟が主催しているとき、今も主催はしているんですけど、主に主催している２年以上前のときに全日本弓道連盟は地区の分け方が中国地区、四国地区だったのでそれで分けてたんですね。それで、枠は中国ブロックが４つで四国ブロックが２つとかだったと思うんです。何年か前に改正があって、いわゆる進出校ですかね実際の決勝トーナメントに上がってるとか参加している大学の数とかで見直しをしましょうということになって、だいぶ減ったんです。結局中四国地区６校あったんだけど４つに減ってあと中四国がまとまってっていう感じで４校になったっていう流れがあります。皆さん知ってると思うんですけど、中国地区、四国地区で分けたときにですね、まあ極端な場合、四国地区だけで決勝リーグができるっていう場合は数的には無いんですけど、例えば、中国地区だけの大学が決勝リーグに残った場合、決勝リーグの結果で選抜を決めることができないことになるので、じゃあみんなどこの大学も参加している予選で決めましょうというのがそもそものスタートだったんですね。途中で申し訳ないんだけど、今選抜大会の主な主管が学連の方に移ったんですけど、準加盟校も出れるんですかね。』

委員長「恐らく選抜には出られないと思いますね。全日主催になったので。」

中村先生「仮に決勝リーグの成績も入れるとして、勝敗とか的中とかあるんですけど、いずれも同的中同勝率というのが起こりえるので、同的中とか同勝率とかいうのが、その時にはどのようにしないといけないのかとかいうのは作らないといけないかなというのが。これはやはり、決めないといけなくなると思います。極端な場合、男子９校残ると思うんですけど８試合しますよね、全部のチームが４勝４敗で同的中というのがまあ理論上は、女子だったら１チーム残って９試合するから多分５勝４敗同的中というのも一応理論上はあり得るので、その時に１位２位３位の決定競射をして決める場合もあるし、あと１位２位３位がスパッと決まったとしても４位５位６位を決めるときにですね、同勝率同的中のとくにどのような基準を持って順位を決めるのかを決めないといけない。また決まった後に細かい順位付けは決めたらいいと思うんですけど、一応そういうこともあるので、そこも考えていただけたらなという風に思います。以上です。」

委員長「はい、ありがとうございます。今ですね、中四国大会の団体決勝の順位決定法というのが、まずは勝率で第一段階で決めて同勝率だった場合は決勝の総的中数で決めることになっています。そこでも同じだったら競射をして勝った方が順位が上という風に決まっていきます。なのでそれに選抜の推薦校もそれに準じるという風に決まっていけばいいと思うんですけど、なのでこの的中数とかで決めるときは、やはり今の基準っていうのもどういう風になっているのかっていうのもお見せするんですけれども、今現在はこれに従って決めているわけです。団体の総的中数ということにはなっているんですけれども、的中数が同率の学校が複数いた場合は１から５の基準に従って決定しているわけです。第一に的中数の多い方が上位で、予選ですから決勝に進むための決定競射があるんですけれども順位で決めて、そのあとは予選１立目の的中数で決めて上位という風に上から順番に上位という風に決まって、したがって決めているという風になっております。なので、的中数で決めるってなった場合は的中数の加える場合、決勝進出決定競射とかが無くなってしまうので、そういった細かいところの基準を考えなおす必要があるんですけれども、そうなったときに、今と同じ感じ３４５とか予選１立目の的中数が多い方が上位みたいな基準を設けていく感じになるかなと思っております。もう一回スライドの方に戻しますね。今賛成の大学の方にご意見をお聞きして、変更案①と③がそれぞれいいんじゃないかという風な意見をいただいたんですが、どうでしょうかね、②と③を比べた時に、やはり予選も加えたほうがより正確な実力というかが測れるのかなという気がないでもないという感じですけど、まあ予選から選考するものを対象として見た方が良いのではないかというような意見が多そうだなっていう感じはあったんですけど、逆にそうじゃないんじゃないかっていう意見もあると思うので、変更案②を支持するっていう大学の方がもしいらっしゃったらご意見を伺いたいなと思うんですけど、特になければ、まずは変更の必要の有無を聞いて、どっちの案に変更しようっていうところでもう一回ご意見を伺いたいなと思っています。もし変更案②を支持するっていう意見がなかったらですね、この①と③で考えようかなという風に思うんですけど、③よりも②の方が良いと思っている方がいらっしゃったらぜひ挙手の方を宜しくお願いします。あ、ありがとうございます。では岡山理科大学の方、ミュートとカメラをオンにしてお願いします。」

岡山理科大学「はい、ちょっと今のお話の一戸前の話の確認になるんですけど、先ほど中村会長がおっしゃられたように順位決定の基準を設ける必要がどの案にしてもあるんじゃないかというお話だったと思うんですけど、それに対する、委員長さんの回答は、変更案①にする場合はもう既に勝率と的中数ですでに順位を決

める方法が基準として設けられているから、その基準通りにやっていってその選抜大会の推薦校も決めるということでよろしかったですかね。」

委員長「はい、そのような趣旨で僕は意見をお話させていただきました。ちょっと待ってくださいね。実際の規約の方を確認したいと思うんですけど、中四国大会、36 条の第 3 項、決勝と書かれているところに、総当たりリーグ戦として勝率をもって順位を決し、同勝率の場合各自競射にて順位を決定する。以後同的中の場合も同様とするとなってて、これは勝率に関係するところなんですけど、勝率が同じ場合ですね、リーグ戦の総的中数によって順位を決定するという風に決まっていて、それでも決まらないときは 1 本競射にて決定するということで書いてあるので、これでいけるんじゃないかなという風には思ったんですけど、どうですかね。」

中村先生「1 位から 3 位まで決めるときにこれを適応するのであって、入賞以外のとこはこれまでも別に同率 4 位とか同率 5 位とかで放置してた。そしたら推薦枠で 5 位と 6 位という風に自主的にはあまり意味がない順位を決定するのにわざわざ競射するんですかとか、一本競射するんですかというのが気になるというところではないですか。例えば 1 位 2 位 3 位がスパッと決まったときに、じゃあ同率 4 位が 3 つ 4 つあったときに、これはやっぱり本大会の入賞とか関係ないんだけど競射するんですかっていうとこだと思うんです。」

中村先生「入賞に関係ない、入賞が決まった後の同率の状態に対して試合をするのかっていう、競射をするのかっていうことだと思うんですけど。これまでの中四のこの選抜大会の推薦校とかを決める理念とすれば、本大会の順位を決める試合以外は手間もかかるので、なるべくそれはやめようと、予選の 1 立目の的中数が多いものを上位とするといったように、新たな競射をしなくても順位が決まるような仕掛けを組んだと思うんですね。だから今までのやり方で行くと、どうしても 1 位から 3 位を決める競射はしますと、その中で順位が決まっていったらそれを最優先にするんだけど、その状態で 4 位 5 位 6 位が決まらなかったらどうするかっていう形でいいのかなと思うんですけど、でも大事なことだから、特に 4 位は行くか行かないかっていう全然違うから 4 位の決定競射はするべきだと、今回の大会の結果とは違うけど、競射をするって皆さんが思われたらそれでいいと思うんだけど、今まではなるべく試合の時間を短くしましょうとかあんまり負担を大きくしないように簡潔にという形で今のルールが決まっ

てるかと思います。」

委員長「この条文の趣旨としては、表彰を決定するときにだけこれが使われると、表彰以外の４位から下については試合時間とか削減のことから同率という風に今まではしていたということですね。なので、これをそのまま選抜の選考に使うかどうかっていうのと、これを使わずにほかに基準を設けてそれに従った方がいいじゃないのかっていうことですね。」

中村先生「案③でも結局同じことが起こる。総的中数で決めるにしても、予選、決勝リーグ通じて同的中数４位タイが３つ４つ出てくるっていうことも考えられるので、やっぱこんときも４位を決めるのは大事だから特別に競射しましょうか、予選と決勝リーグの総的中が同じでも例えば決勝リーグの方が矢数が多いから、決勝リーグで数が多い方が上位とかいう決め方もあると。決勝リーグの総的中を予選の的中数も同じだったら次は何を見て決めるか、やっぱりこれも競射しましょうなのか。」

委員長「案①を選ぶにしてもその他の案を選ぶにしても今迄みたいに決定方法に新しくルールを決定して行うのか、もしくは新しく選抜決定競射みたいな感じで競射を行って決める方が良いのかっていう、問題も生まれた。」

岡山理科大学「そうですね。大会時間に関しては、前回の臨時代表者会議で予選が３立になったと思うんですけど、あれも時間の短縮が結構大きな議題になって、予選３立にしたと思うので、ここでもしルールを変えずに決勝リーグの順位の決め方で選抜の推薦校を決めるとなると、ほぼほぼ確実に、というか確実に勝率と的中数が同率だった場合に、同中競射が起こってしまう確率が高くなると思う。予選を３立にしたのは時間短縮の意味で、今の現状のルールのまま選抜校推薦を決めようとすると同中競射が発生する可能性が高くなって、前回３立にした意味も若干薄れちゃうのかなと思うので、最終的には絶対に同中競射がないっていう可能性はないので、決勝リーグも予選も的中数が全く一緒だったとかいうときは絶対同中競射をしないといけなくなると思うんですけど、そうなる前にできる限り色々基準を設けていって、なるべく同中競射が起こらないように基準を新しく設けた方が良いのではないかなと思っております。」

広島修道大学「広島修道大学の浅田と申します。今話の筋が、競射をするべきなのかしないべきなのかという風に移っていると思うんですけど、ちょっとひとつ前

の話に戻らせていただいて、一応私の意見としては変更案①か③、さっき②と③を比較していたと思うんですけど、それだったら③を使うべきだという風に考えておりまして、変更案③だと確か選抜、すみませんちょっと選抜出ていないので、ちょっとわからないんですけど、選抜確か予選があってその中から 16 校でしたっけ、16 校が決まってトーナメントという形だと思うんですよ。そう考えると、予選の的中もいるし一対一の的中もいるので、そうなったら予選も決勝も総的中で見るべきなのかなというのが私の意見です。結局選抜に行く大学さんは総的中も圧倒的で比較的高いというのが傾向として見られるので、選抜大会の予選、中四国大会の予選決勝両方見るべきというのが私の意見です。競射に関してなんですけど、もし変更案の①の方を採用するようでしたら競射はした方がいいんじゃないかという意見なんですけど、競技になる前に、先ほど岡山理科大学さんが言っていたように、基準を設けるということで、この前の西日本大会の競射の予選の順位決定を使えばいいんじゃないかなと個人的に思っていて、予選１立目の的中２立目の的中で決まらなかったら確か予選１本目の丸の続いた連続的中数で決めていたと思うのですが、あれを使えばなるべく競射を少なく、流石に全的中が全部同じというのはまああり得るにはあり得るんですけど、そこまで高い確率になるわけでもないと思うので、今回の西日本大会の基準、競射の基準を使えば、比較的少なくするっていう状態にして、選抜の推薦校を決めれるんじゃないかなと思いました。以上です。」

岡山商科大学「はい、岡山商科大学の平本です。僕自身の意見としては、変更案の①の方を推したいんですけど、やっぱり的中数で考えると、やっぱりどうしても決勝で１位２位３位で入賞したのに、４位以下の人が選抜に行ってしまうというのがあると思うんですけど、順位的には２位３位が上なのに、下の方が行ってしまうのは、試合で言うのは、順当に上の決勝リーグでの上位４校を推薦した方が良いと思いました。逆に中四国大会っていうのは、決勝リーグなので、リーグ戦なので的中数で選抜の推薦するんだったら、そんなんだったら、的中数で競い合う大会っていうのになってしまうので、一試合一試合でしっかりと勝敗を決めて、その順位をその選抜の推薦として出したらいいなと思いました。4 位とかの競射の順位決めに関しては、決勝リーグ１立目の一本目の丸の続く量とかでやればわざわざ競射をしなくてもいいのかなと思いました。実際、一昨年の中四新でも決勝トーナメント上がってから競射なしで一段目の的中とかで勝敗を決定していたと思うので、それで判断したらいいと思います。以上です。」

広島修道大学「はい、度々すみません。修道大学です。先ほど岡山商科大学さんが平本さんの意見を聞いて、変更案③の意見なんですけど、まあ確かにリーグ戦っていうリーグ大会の意味っていうのは確かに総的中にすると薄れるなっていうのは思ってすごい納得したんですけど、一個ここはどうなのかなって思ったのが、対戦相手がいるということで、対戦相手がまあ凄い強かったりすると、やっぱり精神状態っていうのが変わってくると思うので、そうなると最初に競射の前に基準として見るものとしては、どの大学も同じ基準である予選の方の的中を見た方が良いんじゃないかなと思っていたので、今回変更案③で手を挙げさせていただいたんですけど、変更案③にするにしても変更案①にするにしても、競射の前に基準を設けるとしたら、みんなが同様な意見、状況で引くっていう予選から見るべきではないかなという個人的な意見です。以上です。」

委員長：<基準変更の決>

21 名、本日参加が 30 大学ですので、過半数以上ですので、選抜の選考基準は変更することは決定

「決勝は的中数で見るなら団体予選も含めた方が良いというのはもっともな意見だと思うので、特に何か意見がなければ変更案①と変更案③でこの先は考えていきたい。体予選と決勝リーグの総的中で見るか、大会の結果順、リーグの最終順位順でいいかっていうので決めるかこの２つのどちらかを採用するという形で進めます。選考で競射の前に基準を設けた方が良いという意見は多かったので、①を選ぶにしても③を選ぶにしてもなんらかの基準は競射の前にはおこうかなと思っていますが、特にこれに対しても意見等無ければ進めていこうと思いますが、大丈夫でしょうか。はい、では特になさそうですので、変更の際には競射、最後にはありますけれども、その前には競射はせずに、順位を決められるような基準を置くという方向で考えていきたいと思います。」

＜5 分小休憩＞

岡山理科大学「はい、岡山理科大学です。先ほどまで出されていた順位決定の方法なんですけど、３位以上の決定に関しては今基準があるわけじゃないですか。その順位決定で３位以上が決まっても、例えば４、５、６位が同率で４位が３校いるっていう場合にさっき言った西日の参考基準を使うとか、新しく基準を作っておいて、競射にならないようにするという形にはなるんですかね。」

中村先生「現行のルールの理念からすると、例えば、順位、リーグ戦の上位6校が同勝率同的中の場合に、123位を決めます。そういったときは、一本競射をすることになります。例えば、6校で競射をしていくわけですけど、1校ずつ外れていくわけです。最初の1立で6位が決まって5位が決まって4位が決まって3位が決まって、優勝と2位が決まるっていうことがあった場合、それは順位決定競射で自然に順位が決まるので、そういったときは推薦4位5位6位が自動的に決まると思うんですよね。そうじゃなくて、最初の競射で結果で、競射の中で、同位というか、そういったときに競射の後にどういった順番をするか、例えば、予選を見るとかいう手続きになると思います。はい、以上です。」

愛媛大学「先ほど、変更案③がいいんじゃないかと言ったんですけど、岡山商科大学さんの意見を聞いて、変更案①が良いなと思いました。それで、競射とかの話の中で、今まで通りの選抜の選考方法だと予選4立の総的中上位4校だったと思うんですけど、この変更案①を適応した場合に、決勝リーグの上位4校の的中率が同じだった場合に、予選の総的中数を見るっていう案とかがあればいいんじゃないかと思いました。事前に選考基準を置くっていうことを設けておけば、変更案①でも時間的に最終的に競射が長引いてしまうっていうのも、さっき言われてたけど、確率的にはそんなに高くないと思うので、そうすることで時間も早く終わることができるんじゃないかと思いました。」

愛媛大学「案として出したのは、同勝率同的中数が同じだった場合に、今回予選の場合だと3立の総的中数で順位というか競射を行わずにその的中数でその順位を決める。」

<決議>

委員長：変更案の①に賛成の方が24校、変更案③に賛成の方が1校、無投票に5校。会議の過半数が変更案①を支持したので、選抜の推薦校の基準を変更案の①の形で変更する。

「これ①に変更するに際して規約の改正が必要になってくるんですけれども、団体戦の予選のみを対象としてというわけでありますけれども、団体決勝リーグも入れようとするようにしようと思います。これを変更する際に、先ほど基準のところで競射の前に基準を置くという話だったんですけど、予選のところから基準を置いた方が良いんじゃないかというところで、少なからず、選考に関しては団体予選も入っているんじゃないかと思うので、ここ

を括弧で、変更案①の時は、決勝リーグだけでいいと思っていたんですけど、ちょっと団体予選のところも選考を兼ねますということで上の現行の文言を下の文言に改正したいなという風に思います。中村先生にちょっとお伺いしたいんですけど。この団体予選というところは含めるべきでしょうか。」

会長「結局決勝リーグと予選なら、『本大会は』でいいと思います。だからまあ、現行案から『団体予選は』っていうのを削除して、『本大会は～の選考を兼ねるものとする。』で。」

中村先生「まあそこにもあるように、会則というか、下の細かいことは事前に決めておいてもいいけど、代表者会議で今回これでいいですよねということを確認すれば問題ないと思います。ここに今細かく書かなくてもいいかなと思います。今まで通り細かく書くことは無いかなと思います。」

中村先生「先ほどの選抜大会の出場校の話で準加盟の人はもし仮に出れないとして、もしこの決勝リーグに準加盟の大学が多数入ったときに、例えば、4 枠推薦できない可能性もゼロではないんですよね。」

中村先生「3 校しか正加盟が入ってなくて 4 校推薦できるんだけどもうその 3 校しかなかったら、それはもう優勝しようが下の方の順位だろうがその 3 校を推薦するしかなくなるので、その 3 校を推薦して、もう今年の中四国の推薦は 3 校ですと言って、するしかないと思います。」

中村先生「準加盟が出ちゃいけないとなって、実際のリーグ戦に準加盟校が多数入ったときにですね、一応そういう方針でいいということだけ、まあ今じゃなくてもいいけど、まあその枠がまあ出られないところが決勝リーグ行っちゃったからしょうがないですという形で言えばしょうがないかなと思います。」

中村先生「まあちなみに王座も準加盟校が優勝しても王座行けないから。2 番手の準優勝のところが推薦されるということになってますからね、現状。」

委員長：＜規約改正＞

<u>現行</u>

連盟規約第 41 条②：本大会の団体予選は翌年度の全国大学弓道選抜大会の推薦校の選考を兼ねるものとする。但し、選考方法は本大会前に行われる代

表者会議に準ずる。

改正案

連盟規約第 41 条②：本大会は翌年度の全国大学弓道選抜大会の推薦校の選考を兼ねるものとする。但し、選考方法は本大会前に行われる代表者会議に準ずる。

＜5 分間小休憩＞

6-3. インカレ団体予選各地区実施化について

委員長：的中上位 64 校程度に増やしてトーナメントだけを会場で行う案。この各地区実施化についてなんですけれども、中央委員会でも結構賛成と反対がはっきり分かれまして、主な賛成意見としてはトーナメント進出校の固定化が 64 校になるので多少改善されて選抜との差別化が図れるであったり、予選を各地区で実施するということだったので、遠方の大学が遠征費を理由に参加しない大学を減らせる、もちろん予選を通過すれば決勝トーナメントで会場で引いてもらうことになるんですけど、予選からわざわざ会場に行ってですね、初戦で負けてしまうと会場で四つ矢だけ引いて帰ってしまう大学が多くなってしまうので、そういった大学も減らせるのでないか、そして、トーナメント進出っていう目標が見やすくなって、モチベーションにも繋がるのではないかという意見が主に出ました。反対意見も同じくらい出まして、全国の大学が同じ会場に集まって試合をすることがインカレの意味ではないのかとか、選抜との差別化を図るならむしろ 4 本だけでも大舞台で引けるっていう貴重な機会を無くすべきではない、また、枠を増やしても結局トーナメント進出校は固定化しそうというのが反対意見として出ました。」

中村先生「固定化っていうのが色んな意味があって、わかりにくい大学の方もいると思うので、今全日本委員会は正加盟だったら誰でも参加できるんですよね、登録すれば。ただ、選抜大会はうちの中四国みたいに 1 度にみんなが集まって上位どの大学も正加盟だったら選抜大会に行けるんですけど、ほかの地区とかでは、一部に入っとかないと出られない。一部校の上位何チームが出るとしているので、固定。王座に行きたいとか選抜大会に行きたいとかでも二部校だったらノーチャンスなので、そういう意味で固定化していると捉えることもあります。中四国は王座も選抜大会も秋の大会で頑張れば等しくどの大学もチャンスがあるというところで、違うのかなと思います。」

広島修道大学「ちょっと自分でも意見があいまいなところなので、賛成反対と一概には

言えないんですけど、うちの部として今年あった考えとして、意見を述べさせていただくと、まず去年がインカレの個人予選の日と団体予選の日の同日で行われた。確かその時にやっぱり各学校で他の大学がいない状況でいつもと全く同じ環境なので、緊張感がないという意見が出て、どうしてもトーナメントの会場で、予選会場やっぱり東京とか神戸に行って予選会場に行ってやった方がすごい緊張感もあるし、他大学との交流っていう意味でも他の大学と親密な関係を築いたり、あとそこから練習試合につなげていったりっていうのもやっぱり対面の方が良いんじゃないかという意見が去年は上がっていたんですけど、今年に関して、今年はやっぱりどうしても東京でやるってことで、うちの大学からだと往復で３万近く、それに宿泊費や広告費なんかもかかると、どうしても一人当たりの負担が大きくなってしまう。じゃあ地区で予選を行った方が良いんじゃないかという意見もあったので、賛成反対っていうのは決めかねるものではあるんですが、そういう意見があったっていうのが、うちの大学でありました。あともう一つとして、中四国大会とは違って規模が大きいので矢付けがないっていうのが結構うちの大学では大きいんじゃないかと思って、個人決勝に上がった選手なんかは団体の決勝の方が確か先にあったので、団体決勝で実際に引いて個人決勝に出る選手と個人戦だけ上がったから個人戦だけぶっつけ本番会場で引くっていう選手だとちょっと差はあるんじゃないかなと思うので、これはインカレの各地区実施の反対意見としてはそういう意見もあるんじゃないかなという風に個人的に思います。」

6-4. 介添えが足踏みを確認する行為について

委員長「介添えが足踏みを確認する行為についてということなんですけれども、こちらこの間開催された大会において、介添えが足踏みを直すっていう行為が結構見られて、審査員の先生方からの指摘が多数あったとのことであります。スポーツ競技として見た場合も競技性の面であんまりよろしくないのではないかというご意見があったということで、全日学連の主催大会のうち王座と選抜では禁止されているわけですね。ですがインカレでは特に禁止されていない、アリーナで行われる大会だからっていう理由。現在中四国でも介添えの足踏み確認行為は禁止しているわけではないんですけど、都学の大学によっては確認しているところが多い。これはもし禁止になったら都学には激震が走りそうだなとは思った。」

中村先生「審査員の先生というよりも、色んな先生方からあれはちょっとやめた方が良

いんじゃないですかという意見があるのが事実です。それで、2つ目のスポーツとして見た時の競技性の面でっていうのを具体的に言うとですね、学連の方中央の方頑張っていただいて、試合の様子をYouTubeで配信して色んな方が会場にいなくてもどんな試合なのかっていうのが見れるわけですよね。今良いことに弓道もアニメがあったりとか色々で注目されていていいことなんですけれども、例えば、弓を知らずにゴルフをしている人がですね、ゴルフの人口はめちゃくちゃ多いんで、足踏みを見る行為を見たときにどう感じるかといったらですね、それはペナルティだねということになるんですね。皆さんご存じだと思うんですけど、ゴルフはキャディーさんっていうのが付いていて、途中で話しながらやっていくんですけど、介添えの方がアドバイスをしながらやるっていうのと非常によく似ているんですけど、実際にキャディーの人がプレイヤーの打つ前にスタンスの方向を確認して修正するってなるとこれは禁止行為なんです。」

委員長「この話題もなんというかデリケートに扱わないといけない。結構普通に介添えが確認しているというところも多いと思うんですよ。なので、これを規約で禁止するのか、そこまでしなくても良いんじゃないですかということですね、各大学に要請はするけど、規約で禁止することはしないってした方が良いのかどうか。」

＜意見＞

岡山理科大学「足踏みを確認するとか、介添えが喋ったりっていうことは一切なくて、大学に来てみて普通に足踏みの確認だったり立中に発声してるなどのところに違和感を覚える。足踏みを見たからと言ってどうこうかっていうとどうなのかな、それがあるから、なんというか、それがあるから競技性が損なわれるかっていったらあんまりそこまで大きな影響はないかなと思うが、傍から見たときにそれってどうなの、武道としてあるわけですから弓道って、そこが精神面的なこともあるので、禁止という形でも良い。禁止することで、練習段階から各自で足踏みをとれるように練習するので、選手個人の射法八節の一つである足踏みの向上にも間接的につながる。」

広島修道大学「足踏みのことに今なっているんですけど、自分は別に禁止しなくてもいいんじゃないかと思って、ただ注意はした方が良い。やはり大学は大学、一般は一般で分けてしまうと、大学生が一般の道場に行ったときに、それはダメなんじゃないあれはダメなんじゃないということが起こってしまうので、統一すべきと思っている。今でこそコロナなの

でないんですけど、昔は声、矢声であったり引いてる途中の声が都学とかでもあったと思うんですけど、そういうのを傍から見たときに、武道としてよりはスポーツとして見る気がして。自分も高校からやってたんですけど、高校の時からちょっとあったので、禁止するなら今ちょうどコロナで減ってきているので、矢声とかも、ちょっと言い方がおかしいですけど、ちょっといま静まっているので、この際ここで禁止してしまうのが良いんじゃないかと思います。そこで、先ほど各個人で禁止することで射技向上を促せるとあったので、うちの大学では指導者がいないっていうことで、まだ経験者がいるので指導はできるんですけど、例えば、新しく大学に弓道部ができた、実際経験者があまりいませんってなったときに、その射技の指導を各地区とかで講習なんかを行う必要があると思いました。あと１つ環境を整えた方が良いんじゃないかと思っていて、中四国大会なんかは中国大会も立つ場所に札があると思うんですけど、今回インカレ大会では札がなかったということ、足踏みの関係で全日本の一般の方のやつを見たんですけど、一応全日本の方も天皇杯とかも立ち札がなかったと思うので、それなら全部立ち札をなしにする、逆にありなのであれば、どの大会もつけるっていうことで、今回うちの部員も立ち札がないってことでちょっと困惑してた学生もいたので、そこは環境として統一した方が良いんじゃないかって思います。以上です。」

7.質問会

委員長：特になし

＜加盟校活動報告＞

委員長：今年もコロナウイルスで大変だったというところが結構多かったみたいで、今でも活動が再開できずに部として困ってますというところが多かったりだとか出場できない大会だったりとかがあったというところが多かった。早く収まってほしいというところなんですけど、対面でも実施される大会も増えてきているので、来年は今年よりもそういった大会が増えればいい。」

8.連絡事項

副委員長：＜郵便物について＞

必ず締切日必着を厳守してください。締切日に出すと間に合いませんので注意

してください。郵便物が間に合わないという場合は必ず連絡して下さい。締め切りに間に合わなかった場合は、連盟規約第六十五条に則り罰金を徴収いたします。また特に指定されない限り郵送物は委員長宅に郵送してください。

＜学連の連絡について＞
学連メールでの連絡において返信を要するものは必ず返信するようにして下さい。今後とも電子メールでの連絡は頻繁に行っていきますので、メールの定期的なチェックと返信を必ずして頂きますよう宜しくお願い致します。また、幹部交代が行われたら、「電子メールアドレス変更用紙」とメール連絡にて委員長に必ず連絡して下さい。携帯電話番号を記載して下さい。
＜代替わりに伴うお知らせ＞
次年度の「役員名簿」「委員長連絡先」は後日、本会議の結果報告書と共にご連絡いたします。委員長アドレスからのメールを受け取れるよう受信設定の確認をお願いします。

＜会計関連について＞
連盟費、部員登録費等のお金に関するものは全て、口座振込で振り込んでください。連盟規約第二十五条に則り、基本的には間違い金は返還できませんので金額をよく確認して振り込むようにしてください。また、振込みの際には会計へ振込みの内訳などをメールで連絡するようにしてください。間違った金額を振込んでしまう大学の方が毎年多いので今一度ご確認下さい。会計連絡メールのテンプレをご確認ください。

<質問>
特になし

以上